

市営

# 富寿栄住宅

建替入居者委員会

ニュースレター (第5号)

平成25年度より、市営富寿栄住宅の建替えに関する意見交換、自治活動を活性化するため、入居者の代表で富寿栄住宅のまちづくりについて検討をすすめてきた「高槻市営富寿栄住宅建替入居者委員会」、去る2/23(土)に今年度の第5回会議を兼ねた消防訓練を実施しましたので、皆さまにご報告します！

第5回 平成31年2月23日(土) 10時00分~11時00分  
 富田ふれあい文化センターにて 参加者 入居者12名、高槻市5名

はじめに、中消防署富田分署の方々から防災に関する講話をしていただきました。大阪北部地震、7月豪雨、台風21号と、富寿栄住宅の入居者も実際に大きな災害を経験したことを踏まえ、改めて自助・共助の重要性について説明していただきました。その後は応急手当に関するDVDを鑑賞してから、実際に人形と訓練用のAEDを用いた胸骨圧迫とAED使用の訓練を行いました。



消防署員の方々の指導の下、実際に胸骨圧迫とAEDの使用を体験しました！

みなさん積極的に訓練に参加されていました！



本委員会の経過を地域の皆さまにご報告するため、このニュースレターを発行しています。

編集：(株)市浦ハウジング&プランニング(小倉、山崎)※

電話 06-6361-8480 FAX 06-6361-8788 メール keikaku-osaka@ichiura.co.jp

※高槻市の委託を受け、本委員会のお手伝いをしています

# — 応急手当の手順 —

AEDは、富田ふれあい文化センター、富田小学校、富田老人福祉センターなどの公共施設等に設置されています。



富田ふれあい文化センター窓口

倒れている人などを発見したら、はじめに

- ①意識があるかを確認（呼びかけに反応があるか、など）
- ②意識がない場合は、大声で周りに助けを求める
- ③救急車の要請とAEDを持ってくることをお願いする
- ④呼吸があるか確認（胸が上下しているかを横から見る）

具体的に指名して依頼することが大事です。

（例：「黒い服のあなた、救急車を呼んでください！」）



呼吸がない場合は、胸骨圧迫を行う。

- ・みぞおちの少し上辺りの骨を、両手を重ねてしっかり押す（胸が5cmほど沈むくらい。押した後はしっかり戻すこと）
- ・30回胸骨圧迫→2回人工呼吸を繰り返す（人工呼吸が難しい場合は胸骨圧迫だけを行ってもよい）（※呼吸がある場合は、呼びかけを続けながら様子を見る）

AEDが到着したら、電源を入れ、AEDの指示に従って操作する（胸骨圧迫はその間も継続する）。

- ①AEDの電源を入れる
- ②パッドを急病人の右胸と左わき腹に貼り、コネクタをAEDに接続する（パッドは素肌に貼ること。なお、ネックレス、湿布、水分や体毛などの上から貼ると火傷を負ったり十分な効果が得られないので、これらを避ける、もしくは取り除く）
- ③胸骨圧迫を一時中止して急病人から手を離す。AEDの心電図解析の終了を待つ（手をふれていると正しい解析ができない）
- ④AEDが「ショックが必要です」とアナウンスしたら、急病人の周囲から人を離し、AEDのボタンを押す
- ⑤急病人の呼吸が戻らない場合は、再び胸骨圧迫を開始する（一定時間経過後、再びAEDが心電図の解析を開始するので、救急車が到着するまで③～⑤を繰り返す）



パッドを貼る位置は、左右が逆になっても問題はありません。

「電気ショックは不要です」と言われても、呼吸が戻っていない場合は胸骨圧迫を続けます。

呼吸が戻った場合は、胸骨圧迫を中止します。

※ここに記載された手順は、必要最低限の内容のみを指導してもらったものです。